

第 4 回 建設業経理士検定試験 1 級原価計算

〔第 1 問〕

問 1

常時発生する工事共通費用について、予定率を使用して配賦する意義は、計算の迅速性と配賦の正常性を確保することにある。実際率を使用して配賦する場合、実際発生額が確定しなければ配賦作業が実施できず、計算が遅延する。さらに、工事繁忙期には工事共通費用の配賦額が少額となり、工事閑散期にはその配賦額が多額となり、配賦の正常性が損なわれる。これらのような実際率の欠陥を克服するため、予定率を使用するのである。

問 2

仮説材料は、複数の工事現場で再利用される為、工事に共通する費用であるといえる。ここに、その損耗額を各工事に賦課する意義がある。賦課の手法については、社内損料計算方式とすくいだし方式がある。前者は、あらかじめ仮説材料の損耗分等の予定率を算出し、後日、その差異を調整する方式である。後者は、仮説材料を工事投入時点で取得価格の全額を原価処理し、工事完了時点でその評価額を工事原価から控除する方式である。

〔第 2 問〕

1	2	3	4	5
A	B	B	A	A

〔第 3 問〕

問 1

運転 1 時間当たり社内使用料 ￥

供用 1 日当たり社内使用料 ￥

問 2

使用料原価差異 ￥ 記号

[第4問]

① ￥

⑥ ￥

② ￥

⑦ ￥

③ ￥

⑧ ￥

④ ￥

⑨ ￥

⑤ ￥

〔第5問〕

問1

完成工事原価報告書	
自	平成×9年1月1日
至	平成×9年1月31日
金沢建設工業株式会社	
(単位:円)	
I. 材料費	1,302,182
II. 労務費	1,256,680
(うち労務外注費	602,330)
III. 外注費	439,960
IV. 経費	735,880
(うち人件費	453,170)
完成工事原価	<u>3,734,702</u>

問2

¥

問3

① ¥ 記号

② ¥ 記号

③ ¥ 記号